

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 11月25日

【評価実施概要】

事業所番号	3670101496
法人名	社会福祉法人 あさがお福祉会
事業所名	グループホーム あさがお
所在地	徳島県徳島市大原町外籠47-1 (電 話) 088-663-3101
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 11月 15日

【情報提供票より】(平成19年10月30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤6人,非常勤10人,常勤換算 Aユニット7.5人 Bユニット7.2人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	共益費5,000円、その他実費	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	76 歳	最高	101 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	保岡クリニック論田病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は商業地、住宅地を背にして、南面に山や田んぼが広がる静かで自然に恵まれた環境の中にある。木造平屋立ての建物は、玄関を入ると杉の香りがし、明るくぬくもり感のある造りになっており、広い廊下は入居者がシルバーカーで屋内散歩を楽しむなど、のどかでゆったりとしている。常勤看護師を配置し、入居者の日常の健康管理や母体クリニック、関係医療機関への連携が密に図られ、入居者本人、家族の安心感が得られる支援が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題についてミーティング等で話し合いが行われ、本人の自立につながる排泄支援については、排泄状況の把握、誘導、リハビリパンツ等使用用品の工夫などにより、自立支援への改善が図られており、実績もある。食事の献立は併設ケアハウスの献立表を参考に、利用者と日々相談して立てているが、専門家の助言を得るに至っておらず、継続検討の取り組みが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員は、日ごろのサービスの振り返りや話し合いをしながら自己評価に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ホームの現状報告や災害対策等について話し合いが行われ、事業所の理解や地域の方とのつながり、応援が得られるようになり、行事や日常のサービスの向上に活かされている。会議の開催は、6~8ヶ月に1回程度となっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者や家族が相談、苦情などを話しやすいように、呼びかけや常に話を聞くように努め、内容や気付きを記録し、ミーティング時に話し合うとともに、法人内第三者委員の意見を得て、改善やサービスの向上に反映させている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎月のお誕生会、夏の夕涼み会等の行事に、地域の婦人会や近隣の方の協力や交流を得るほか、ボランティア受け入れなどをして地域の方との交流に努めている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の目指す、サービスのあり方を示したわかりやすい理念になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念である「笑顔とやすらぎ空間の提供」は、日々のサービスの目指すものであることをミーティング時等に常に話し合い、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時の挨拶や毎月のお誕生会、夕涼み会等の行事に地域の婦人会、近隣の方の応援、交流のほか、ケアハウス入居者との共同菜園での交流等に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価改善方策についてミーティング時で話し合うとともに、管理者、職員と一緒に自己評価にも取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状報告や災害対策等について話し合いが行われ地域の方の理解やサービスの向上に活かされている。会議の開催は、6～8ヶ月に1回程度となっている。	○	地域と交流促進の場となる運営推進会議の2ヶ月に1回の定期的開催が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険被保険者証更新の代行や制度面などでわからないことがある場合や、不安に思うことがあれば問い合わせをするなどして担当者と連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態等を掲載した個別の「あさがお便り」を毎月家族に送付するとともに、家族の来所時や必要時に電話で報告が行われている。預かり金は「あさがお便り」と一緒に収支報告書を送付し、来所時に認印等を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、利用者や家族が相談や苦情を話しやすいように、常に話を聞くように努め、内容を記録して職員間で話し合うとともに法人内の第三者委員の意見を得るなどして改善や、サービスの質の向上に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等が最小限になるように、業務内容や勤務時間、家庭の事情等に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の年間研修計画を立て、全ての職員の学習機会を設けている。外部の研修についても職員の習熟度に応じて受講できるようにして職員を育てる取り組みがされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会等からの情報収集のほか、他の事業所との相互訪問や見学などの交流活動を通してサービスの質の向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に遊びに来てもらうなど体験利用をしてもらい、職員や場の雰囲気に馴染んでもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	魚さばきやらつきよ漬け等々利用者の得意分野発揮の場づくりなどに配慮しながら、お願いをしたり教えてもらったりして、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴、習慣等の把握と思いや言葉に常に耳を傾け、希望に添った生活ができるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のかかわりや家族の来所時に希望や要望をうかがい、それに沿った計画を立てるようにしている。カンファレンス時には原則全職員が参加し、意見やアイデアを反映した個別で具体的な介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しのほか、心身の状態の変化に応じて見直されている。介護の目標項目毎に記録をまとめ、毎月のミーティング時に報告して見直し検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の病状等に応じて早期退院対応や通院、かかりつけ医通院付き添いなど柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望や入居前からのかかりつけ医への通院付き添いとともに病状の報告や治療の方針等について相談等連携を図りながら支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた対応への方針を、本人、家族、医師と繰り返し相談しており、職員とも方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応や声かけ、個人情報の取り扱いについて、職員に具体的に伝えられ、プライバシー保護について全ての職員への徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調やペースに配慮しながら、テレビ等のその日の情報や話題などから、行きたい所やしたいことなど、希望を聞いたり、汲み取るなどして、その人らしい暮らしの支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞くなどしている。前庭に広がる菜園での収穫や調理、配膳、片付などに参加をしてもらい、和やかに会話しながら、職員と一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望にあわせて毎日入浴ができるよう支援がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	プランターの水やり、食器洗い、俳句など趣味活動のほか、思い出話に耳を傾けるなど、一人ひとりの力を活かした役割、楽しみごとが持てるよう支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの心身状況や希望にあわせて、散歩や大型スーパーへの買い物、お茶などに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの大切さを理解し、日中は玄関に施錠をしていないが、建物の構造上、見通しが悪く外部からの用心のために玄関には開閉時のチャイムを設置している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人防災管理規程があり、火災避難訓練、地震避難訓練を定期的実施し、運営推進会議においても話し合いが行われ、地域民生委員や婦人会にも協力が得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量をチェック表に記録し、一人ひとりの摂取状態を把握して食事量や水分確保の支援をしている。専門家による定期的な栄養バランスや献立への助言が得られていない。	○	栄養バランスや献立への専門家の定期的な助言が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの敷地、建物は広く、リビングからは広い菜園が眺められ明るくて日当たりが良い。廊下、中庭ベランダは広くてゆったりしており、利用者はシニアカーを押して散歩を楽しむなど、居心地よく過ごせるような工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には押し入れ、枕灯、エアコン、加湿器が備え付けられ、利用者の使い慣れたものや好みのものが持ち込まれ、本人が過ごしやすい居室づくりがされている。		